

死なない人間はいないから、
その時が来るまで自分らしく生きる

市民病院特集
人生会議のすすめ

さあ、 生きる準備をしよう



ACP(アドバンス・ケア・プランニング)とは…将来の変化に備え、将来の医療およびケアについて患者さんを主体に、そのご家族や近い人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、患者さんの意思決定を支援するプロセスのこと。愛称は「人生会議」

11月30日は「人生会議の日」です。

「ACP」とは何なのか、何をやるのかなのか知ってほしいとの思いから、市民病院の神谷院長が海部地域医療サポーターの会代表の横井千恵子さん(津島市在住)と意見交換をしました。

(以下、横井さん…横、神谷院長…院)

「ACP」とは「自分のこれからの生き方を考えること」

院：「ACP」と言われているが、一般人はきつと何のことかわからないですよ。

横：周りの人にも聞いてみたけれど、ほとんどの人が「ACP」という言葉は知らないです。

院：「人生会議」ならどうでしょう。

横：「人生会議」も「うん…？」という感じですね。

院：「終活」の方が分かりやすいでしょうか。

横：「終活は？」と聞くと、「それならわかる」と。ただ、「荷物を整理する」とか「財産をどうする」というふうに理解している感じ。

院：「自分のこれらの生き方」というふうには、

みなさんあまり考えていないというふうです。

横：そうですね。「生き方」というよりは、「死」については、ある程度年をとったり、がんの告知を受けたりしたら考えるかもしれません。

院：今どうしても出てくるのが「がん」で終末期(※)になったらという話ですよ。気を付けないといけないのが、例えば早期のがんは治る可能性が高いんです。だからがんの告知を受けても終末期とは限りません。がん以外にも亡くなる方で多いのは、心不全、呼吸不全、腎不全、あと老衰なんです。

院：人間生まれてから育って、そこからだんだん年を取り、やっぱり機能が落ちてきます。ただ、心臓や肺が悪い方は、一時的にちょっと悪くなることって結構あるんです。でも、治療することによってよくなって、また普通に近い生活が送れるように



▲海部地域医療サポーターの会
代表 横井千恵子さん

なるんです。その繰り返し。どの時点から、終末期というのか。

※終末期とは…治療効果が期待できず、予測される死への対応が必要となった期間のこと。

横：繰り返してうちに、だんだん回復しなくなったときでしょうか。

院：回復しにくくなる時がある。もしくはかするとよくなるかもしれないけれども、そのまま悪くなってくる可能性の方が高い…という言い方をすることはあります。

最終的には、気管内挿管といって機械につながりが必要が出てくるかもしれませんが、そういつた医療処置を望まれるかどうか。

心臓や肺が悪い人は終末期の期間が長いから、その途中で自分がこうなったら、もうこれ以上治療をやらないうつ選択肢が、考えられる